

# 都市ごみ固形燃料化施設\*1

佐藤 明宗\*2 吉田 鉄男\*3 木暮 覚而\*3

## RDF Plant for Municipal Garbage

Akimune Sato Tetsuo Yoshida Kakuji Kogure

### 1 はじめに

国土の狭い我が国の都市ごみの処理は焼却処理を主としているが、近年のごみの増加やプラスチックごみの増加により、ごみの持つエネルギーの有効利用が求められている。

このような背景から、都市ごみの RDF (refuse derived fuel, 固形燃料) 化処理が脚光を浴びようになり、この1~2年間で数社がこの分野に参入してきている。

本件は、我が国初の国庫補助認定となった RDF 化施設 (Photo 1) であり、当社エンジニアリング事業部が(株)アールエムジェイ

### 3 ごみ固形燃料化施設概要

#### 3.1 施設の規模

本施設は、Table 1 に示すごとく厨芥ごみを含む可燃性の都市ごみを、1日8時間の稼働で28 t/dの処理し、約13 t/dの RDF を製造する。16時間稼働すると、56 t/dの処理が可能であり、複数ライン化すれば100 t/d以上の設備も製造可能である。

Table 1 Specification summary of plant

### 2 ごみ固形燃料化処理の特徴

Moisture	55 (15 ~ 70) %
Calorification	2 000 (1 600 ~ 2 800) kcal/kg
Capacity	28 t/d-8h (56 t/d-16 h)

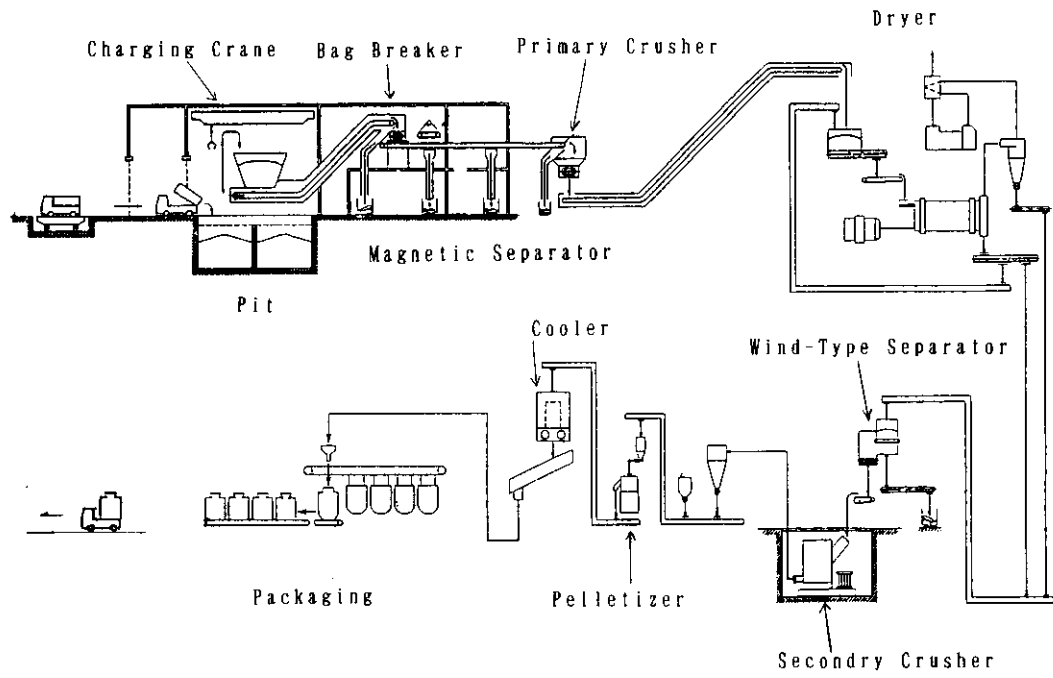


Fig. 1 Process flow

### 3.2 施設の特徴

本施設のプロセスフローは Fig. 1 に示すごとく、選別、乾燥、成形、梱包の工程で構成されており、各工程は以下の特徴を有している。

成形の効率を高めている。

#### (4) 脱塩素剤の添加

固形燃料に成形する直前の工程で、脱塩素剤として消石灰を数%添加することにより、燃焼ガス中の塩化水素を抑制できる。